

## 海外で活躍する職員（海外留学）



シカゴ大学クロストーク

平成30年入庁

シカゴ大学  
**金田一 敏幸**

国税庁国際業務課、京橋税務署個人課税部門国税調査官、財務省主税局税制第一課通則法規第一係長などを経て、令和5年から現職。

平成29年入庁

シカゴ大学  
**山口 大地**

財務省主税局参事官室、浦和税務署個人課税部門国税調査官、国税庁酒税課輸出促進室輸出促進第一係長などを経て、令和4年から現職。

### 海外大学院に留学して

**金田一**：私たちはシカゴ大学公共政策大学院に留学しています。留学を通じて、国際的な議論をリードできる知見や語学力を習得することを目標としています。

例えば、多くの企業がグローバルに活動する中、企業が国ごとの税制の違いを利用して納税額を少なくする、いわゆる租税回避が問題となっており、経済協力開発機構（OECD）を中心に各国政府が協力して対策に取り組んでいます。国税庁の職員は日本政府を代表して関連する国際会議に出席するほか、OECD等の国際機関でも貢献しています。こうした職務に今後活かせるよう、シカゴ大学では英語力の研鑽や統計分析手法の勉強などに取り組んでいます。

とはいえ、留学に臨む職員のモチベーションはそれぞれ異なるものです。山口さんは留学1年目にロースクールで法律、2年目に公共政策を学ばれていますね。色々な分野を勉強してどのような学びを得ましたか？

**山口**：1年目は法律の観点から米国税制について、2年目は税の経済的な効果を含め、経済学を中心に学んでいます。課税は法律に基づいて行われるため、法学が重要であることは当然ですが、税は企業や個人の経済活動に影響を与えることから経済学の知識が不可欠であることを痛感しています。税は世の中のあらゆる経済活動と関係しているため、国税庁の業務には全ての学問の知識が役に立つ場面があると思います。学生の皆さんには今の専攻に関係なく国税庁に興味を持っていただけたら嬉しいです。

### 米国での日々

**金田一**：アメリカに来て半年、特に勉強で濃密な生活を送っています。2学期目はそうした生活にも慣れてきて、多様な留学生との学びを楽しんでいます。友人と勉強を行う際に、専門的な内容を英語で

まく説明できないことにもどかしさを感じますが、議論を通じてバックグラウンドが違う者同士が理解を深めあう過程は刺激的です。友人と食事などで仲を深める機会もあります。他方、日々の生活を通じて改めて日本の良さを感じます。例えば、日本の医療制度（税も活用されています！）は本当に素晴らしいと米国で高熱を出したときに実感しました（笑）山口さんはいかがですか？

**山口**：私は大学院の休みを使って、米国中を見て回っています。日本での学生時代のゼミで政府税制調査会の中里会長が「（私が、）トランプ（前）大統領の当選を予想できたのは、高校生の時にウィスコンシン州でホームステイをして、以降、都市部ではない米国の情報を得ていたから。ニューヨーク等の都市部だけが米国ではない。」という趣旨のお話をされたのを覚えていたので、ロサンゼルスやシカゴだけしか知らないままで留学を終わらせたくないと思っていました。

**金田一**：だいぶ色々行かれていますよね？

**山口**：そうですね。州の数で言えば約7割ぐらいです。

**金田一**：留学中に全州制覇してほしい（笑）。現地でどのようなことを感じましたか？

**山口**：選挙の話であれば、生活スタイルや人種構成が地域によって全く異なっていて、考え方が多様になることは当たり前だと納得しました。公務員的な視点だと、地平線まで広がる荒野や砂漠、草原に州間高速道路が張り巡らされている米国の国力の強さを感じました。海外留学は大学以外でも多くのことを学べる貴重な機会です。

### 学生の皆さんへ

**山口・金田一**：国税庁には、税という軸を中心に国内外問わず皆さんが活躍する機会が多くあります。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。



ロンドンから

令和2年入庁

LSE（ロンドンスクールオブエコノミクス）

**小池 菜穂**

国税庁国際業務課、麻布税務署個人課税部門国税調査官、国税庁法人課税課調査企画係長を経て、令和5年から現職。

### ロンドンでの学び

私は今、ロンドン大学（ロンドンスクールオブエコノミクス）で会計学を学んでいます。世界的な金融センターであるロンドンの中心地に位置することから、多くの国から優秀な、そして多様なバックグラウンドを持つ学生が集まっており、日々の授業では彼らから刺激を受けつつ



刺激的な日々

平成26年入庁

サセックス大学

**池田 麻実**

国税庁人事課、財務省主税局調査課、熱田税務署個人課税部門国税調査官、国税庁査察課、国税庁参事官補佐などを経て、令和5年から現職。

### 海辺の街 Brighton より

私は今、イギリスのサセックス大学LLMIにて留学をしています。ここで特筆すべきは、私は子供2人（執筆当時5歳・2歳）を連れて留学をしているという点です。子供を連れて見知らぬ土地、ましてや海外移住なんて…！と渡英前は、自分で留学を決めたものの、不安で不安で仕方な

充実した学びの時間を過ごしています。

大学院では主に、財務諸表分析や管理会計論、組織のパフォーマンス評価やマネジメント手法について研究しています。授業で取り上げられるテーマには、納税者に対する説明責任を果たすために公的機関はどのような情報を提供すべきか、職員のモチベーションを高めるために何をすべきかといった議論も含まれます。国税組織の運営に携わる総合職員として参考となる内容も多く、将来の業務において学んだ内容をぜひ活かしたいと考えています。

### 留学で得たもの

留学、そして海外での生活は自分自身にとって大きな成長の機会だと実感しています。英国の大学では、クラスでのディスカッション、エッセイの執筆などにおいて、自分の意見を持ち、それを論理的に説明するスキルが求められます。言語の壁がある中で、自分の言いたいことが相手に伝わらずもどかしい思いをすることも多いのですが、それでも積極的に議論へ参加することで、渡英前の自分から多少は成長できたような気がしています。留学といった自分の能力向上に挑戦し、視野を広げる機会があることは国税庁の魅力の一つだと考えています。

かったのですが（実際、日本から遠隔での保活や家探しは本当に大変でした）、こちらでの生活を始めて「どの世界に行っても子供はいる」という当たり前のことに気が付いてから、とっても気が楽になり、現地での暮らしを楽しむ余裕も出てきました。

### なぜ今、留学なのか？

国際金融法専攻のコースメイトは20名程度で（毎回冷や汗をかきながら発言しています…）、弁護士や金融機関勤務、中には仮想通貨の専門家もいたりします。

ロースクール全体を見渡しても、日本人は恐らく私一人。私が何者であるのか、職業は何なのか…誰も私のバックグラウンドを知らない中でまっさらなスタートを切ることは、本当に新鮮な体験でした。どうしても子供の預け先が確保できず、ゼミに子供2人を出席させたこともあるのですが、その時の友人達の驚き顔は、今でも忘れません。「あなた子供いたの？一体何歳なの？子供を連れて留学に来ているの？そのモチベーションは何なの？」彼らに問われる中で、自分という人間を語り、勉強する目的を語り、将来の夢を語る。大学院で何を勉強したか、という点ももちろん大変重要なのですが、このような経験が、私のこれからの役人生活に、新しい刺激と展望をもたらすのではないかと感じています。

子供がいるから出来ないと思っていたことは、子供がいるからこそ楽しめることに、いつの間にか変わっていました。学生の皆さんにも、ご自身の可能性を試す職場として、国税庁をお勧めしたいです。